

岩手県内地震被害調査報告

片岡俊一

1. 概要

土木学会コンクリート委員会と構造工学委員会の合同調査団岩手班に同行し、岩手県内、盛岡から一関の間の土木構造物被害を見て回った。合同調査団岩手班は、NEXCO 東日本、JR 東日本に協力を得て、それぞれ機関が管理する構造物を調査した。それについては、別途報告書が提出されるので、ここではそれ以外に気がついた点を示す。

2. 工程

3月24日、弘前ー盛岡

3月25日、午前中は盛岡市、矢巾町にある新幹線の高架橋を調査。午後は、NEXCO 東日本の構造物のうち、北上から花巻間にある橋梁を調査。その後、花巻周辺を調査

3月26日、午前中は盛岡市、矢巾町にある新幹線の高架橋を調査、午後は、JR 東日本の構造物のうち一関から北上の間のもを調査。その後、弘前に戻る

3. 雑感

- 調査した範囲の岩手県内では、構造物被害は多くはない。
- 建築構造物の被害は、南に位置する一関市では外壁や看板の被害などが見られたが、それ以北では（移動中には）見られなかった。
- 遠くから見ると、北上川遊水池では、斜面での地すべりが各所であるようであった。（県の被害報告にも記載されている）。
- 内陸部の盛岡、花巻、北上、一関であってもガソリンの入手は容易でなかった。灯油の入手も大変であるとのことであった。
- コンビニには品物はなかったが、個人経営のラーメン店は通常に近い営業をしていた。

4. 被害写真

4.1 橋台裏込土の沈下

緯度・経度： 39.3455 度, 141.1075 度

説明： 写真は国道4号線の北上市飯豊での沈下の様子である。国道が飯豊川を渡っているが、飯豊川の堤防にも沈下と縦クラックが見られており、周辺地盤とともに裏込土が沈下したものと思われる。



写真1 北側を見る。



写真2 南側を見る。



写真3 北側の橋台



写真4 北側の堤防. 縦クラックが見られる。

4.2 一関駅で見られた地盤沈下

緯度・経度： 38.92649 度, 141.13758 度

説明： 一関周辺は、2003年5月26日に起きた宮城県沖の地震以来、強い揺れに何度か見舞われている。上記の地震以来、何度か一ノ関駅を利用したが、写真に見るような地盤沈下は今回の地震で始めて発生したように思われる。長い継続時間による揺すり込みによって沈下したものと考えられる。



図5 周辺地盤の沈下とそれにとまなう
ATM用小屋の傾斜



図6 写真5の左側，遠景．砂利は今回の地震のためにひいたものと思われる．



図7 写真5の建物部分のクローズアップ

以上